

財団法人 日中医学協会

2010 年度共同研究等助成金報告書—中国人研究者・技術者招聘—

平成 22 年 8 月 10 日

財団法人 日中医学協会 御中

貴財団より助成金を受領して行った中国人研究者・技術者招聘について報告いたします。

添付資料：研究報告書

受給者氏名：新正 由紀子

所属機関名：東京医療センター

所属部署名：臨床研究センター 職名：研究員

所在地：〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1

電話：03-3411-1712



1. 助成金額： 370,000 円

2. 研究テーマ

先天性難聴児の新生児聴覚スクリーニングの効果に関する比較研究

3. 成果の概要

新生児聴覚スクリーニングに関し、中国におけるトップの指導者である黄麗輝先生の招聘により、わが国との比較を行い、同時に今後の共同研究について検討した。

4. 被招聘者

被招聘者氏名：黄 麗輝

職名：教授

所属機関名：首都医科大学附属北京同仁病院

部署名：耳鼻咽喉科

5. 滞在日程概要

H22.6.21 (月)：来日、6.22 (火)：厚生労働省訪問、日中医学協会訪問、6.23 (水)：東京医療センター・耳鼻科外来見学、Otology & Neurotology Conference にて講演、6.26-27 (土・日)：第 5 回小児耳鼻咽喉科学会に参加、6.28 (月) 東京医療センター・耳鼻科外来見学、6.29 (火)：東大耳鼻科訪問、6.30 (水)：帰国

先天性難聴児の新生児聴覚スクリーニングの効果に関する比較研究

招聘者氏名	新正 由紀子
所属機関	東京医療センター・臨床研究センター 研究員
被招聘者氏名	黄 麗輝
中国所属機関	首都医科大学附属北京同仁病院

要旨

黄麗輝先生は中国における新生児聴覚スクリーニングに取り組み、本年教授に昇進し、中国におけるトップ指導者として新生児聴覚スクリーニングに取り組んでいる。その現在の状況の報告と現在のわが国の新生児聴覚スクリーニングとの比較を行った。同時に今後の共同研究について検討した。

Key Words :

新生児聴覚スクリーニング、先天性難聴、ABR、人工内耳

緒言（目的や研究背景）

日本では新生児聴覚スクリーニングは全出生児の60%に行われている。中国では北京や上海のような大都市でのみ行われている。日本と中国のそれぞれの場合を比較し、問題点を検討することにした。

研究（治療）対象と方法

新生児聴覚スクリーニングと人工内耳手術が中国と日本ではどのように行われ、どのような成果をあげているか、何が問題点かを比較検討する。

成績（結果）

- ①わが国では年間の出生数は100万人であるが、中国では2000万人である。
- ②わが国の新生児聴覚スクリーニングは全国的に行われ、約60%が対象となっている。中国では北京や上海のような大都市でのみ行われ、全出生児の数%にしかすぎない。
- ③先天性難聴児の人工内耳手術は毎年先天性難聴の30%が対象となっているが、保険加入者の少ない中国では0.5%程度と考えられる。

考察

新生児聴覚スクリーニングの中国の問題点は大都市でのみ行われていることである。これは財政上の問題であろう。新生児の数が年間2000万人とわが国の20倍と多いことにも原因がある。人工内耳の普及率が中国では低いのは保険制度がまだ普及していないためであろう。

参考文献

- 加我君孝、新正由紀子他：新生児聴覚スクリーニング．小児科臨床ピクシス pp55-59、中山書店 2010
加我君孝、新正由紀子他：幼小児の人工内耳手術—先天性および後天性高度難聴児に聴覚を回復させる新しい医療—．BIO INDUSTRY 26(3) : 92-98, 2009